



所在地 兵庫県川西市清和台西 4-2-97
 竣工 2011年3月22日
 設計者 株式会社ジャクエツ環境事業一級建築士事務所 安藤武司
 大塚謙太郎一級建築士事務所・ちびっこ計画 共同企業体 大塚謙太郎
 施工者 飛鳥建設株式会社 中日本建築支社
 左 官 株式会社松浦

選考評

漆喰壁と大きな丸太柱が印象的な園舎である。塗り継ぎができない広い大壁は丁寧に押さえられ、細部まで緻密に仕上げられている。「現代の子供たちに対し、壁、柱、床など本物の素材の中で成長してもらいたい」という想いを設計、施工、施主と一緒に作り上げた作品であり、その中で漆喰が子供たちと暮らしていくことは大変喜ばしいことである。

受賞者のコメント／設計者

撮影-上田写真事務所 上田日出見

力強い陽射しを柔らかな光に変えてはね返す様は、食物を咀嚼してこどもに与える母親のようで、体をびったりとくっつけたくなる心地よさがあります。「漆喰」は、五感を通じてこどもたちの心に働きかけうる材料と言えるかもしれません。私たちは、「本物」の素材の中で暮らすことが、こどもたちの「育ち」につながると考え、杉・高野槇・竹・障子紙などとともに、「漆喰」を選びました。(大塚謙太郎)

作品の設計製作の趣旨

『学校法人 森友学園 エンゼルキッズ清和台』は、兵庫県下初の幼保連携型認定こども園として兵庫県川西市に建設されました。0歳児から2歳児までの乳幼児30数名が暮らす、木造2階建ての園舎です。園舎の基準となる児童福祉施設最低基準では、2階建ての木造園舎は制限が大きく建築することが難しいのですが、燃えしろ設計という設計方法を用いて耐火性能を確保し、柱や梁などの木製構造材をあらわしで用い、木の香漂う空間を実現させました。

日本で伝統的に使われてきた本物の建材に囲まれた空間で暮らすことを、こどもたちの「育ち」につなげようという考えのもと、杉や高野槇の丸太、竹の床や天井、御影石、杉の腰板、障子紙、畳などとともに、「漆喰」を使用しました。

新建材に比べて伝統的な建材は、低年齢のこどもたちが暮らす空間において多くの負の側面と隣りあわせとなります。例えば、障子紙は簡単に破れ、こどもたちの絶好の標的となりますし、節や割れのある丸太柱は削げが刺さるなどの怪我の心配を孕みます。防汚性能や耐久性の高い吹付外壁材に比べて「漆喰」は汚れやすく耐久性にも劣ります。普通なら管理する立場からは敬遠されてしかるべき伝統的な建築材料たちですが、私たちはその負の側面こそが、こどもたちの本当の「育ち」につながると考えました。

こどもたちの「育ち」に対して、建築が僅かでも貢献できるとすれば、それはこどもたちの小さな手が建築材料に触れる瞬間にあるのではないかと考えています。時には優しく、時には厳しく、その時々に応じて違った表情を見せる伝統的建材は、無表情な新建材にはない力を備えています。コンクリートにはない柔らかさと、ビニールにはない肌ざわりと、金属にはない暖かさを持つと同時に、時には痛みをもってこどもたちに無言の教えを与えてくれます。

玄関まわりや一時保育室に聳える丸太の柱は、身太い安定感と凛とした垂直性を感じさせますが、削げが刺さったり、出節に頭をぶついたり、こどもたちの怪我につながりかねない材料でもあります。しかし私たちは、全ての危険を排除するのではなく、それらを自然物からの教えと考え、こどもたちの「育ち」のきっかけにしようとしています。

外壁に塗られた「漆喰」は、まぶしいほどの輝きをもちつつも、やわらかな光をこどもたちに注いでいます。力強い陽射しを柔らかな光に変えてはね返す様は、食べ物を咀嚼してこどもに与える母親のようでもあります。また限りなく優しいその手触りは、適度な湿度と温度を合わせ持ち、体全体をびったりとくっつけたくなる心地よさを与えています。「漆喰」は五感を通じて、こどもたちの心に働きかける力を持った材料と言えるかもしれません。

この園舎は、こどもたちの「育ち」に対して、建築の果たせる役割とは何かを追求する試みであり、「漆喰」をはじめとする様々な伝統的建築材料の力を、こどもたちの「育ち」につなげるための提案です。

それはまた、保育者と建築技術者が手を携えて、その大きな課題に真正面から向き合い、それぞれの職能の垣根を超えて手探りの中で紡ぎ出した、小さな施主たちへの回答でもあるのです。